

「あぶくまもち」で粘り強く！

までいな取組が未来へ繋ぐ～飯館村の復興！

相双農林事務所農業振興普及部

1 背景・ねらい

【背景】

- 山間高冷地に位置し、震災前は家族経営による畜産、水稻、園芸、花卉栽培が盛んであった。
- 東日本大震災で全村避難となったがH29. 3. 31の避難指示解除後（帰還困難区域を除く）、帰村を進めているものの農業経営体数は大きく減少し、村の農業構造は大きく変化。
- 飼料用米、WCS、牧草、飼料用作物の生産を中心に農業法人など限られた担い手による大規模経営化シフトしつつある中、農業振興のシンボルとなる品目が必要。

村専任担当（普及指導員）が捉えていた課題

- 帰村が遅れており地域の担い手が著しく不足
- 全村避難等で産地が一時消滅。特に耕種部門はかつての園芸品目のような村の「顔」となる品目の産地化が必要
- 営農再開者の経営が脆弱で限られた担い手の経営規模拡大と収益向上が必要

表1 飯館村の震災前後における農業構造の推移

	H22	R4
村人口(人)	6,500	1,500
営農再開率(%)	-	31.7
農業経営体数(件)	1,200	41
畜産(頭数)	2,996	758
水稻(面積ha)	697	44
野菜(キュウリ)(面積ha)	5	0
花卉(トルコギキョウ)(面積ha)	4.6	0.4

飯館村独自品目の産地化が必要

何か良い品目はないかな？



飯館村公式キャラクター
イタネちゃん

あぶくまもちを復興のシンボルに！

産地化に必要な品目の選定

- 限られた労力で大規模生産できる品目
- 安定生産、安定取引できる品目
- 飯館村のPRになる品目

村の希望

- もち団地復活の思い
- 以前産地化しようとした耐冷性もち品種「あぶくまもち」で復興したい

【ねらい】 あぶくまもちを産地化し、飯館村の復興を村内外へPR。村の復興・創生へつなげる

2 活動内容

(1) 安定生産

普及・栽培実証 (R3)

- ・種子場設置申請支援 (R3)
- ・種子場生産者栽培講習会 (R3～)
- ・生育調査、栽培指導会 (R3～)
- ・栽培暦作成 (R3、R4)
- ・飯館村あぶくまもち生産組合（以下「生産組合」）設立誘導 (R3)



村

- ・求評会開催 (R3)
- ・資材費等の補助 (R3～)
- ・生産組合事務局 (R3～)

おこわ最高！



JA

- ・種子もみ、農産物検査 (R3～)
- ・苗生産 (R3～)
- ・JA稲作部会との調整 (R3～)
- ・種子もみの保管 (R4～)

普及

- ・生産組合設立の誘導
- ・種子場、生産技術
- ・販路紹介

販売先

村

- ・補助事業 (PR含む)
- ・生産組合事務
- ・品質管理
- ・村内需要調整

JA

- ・調製作業
- ・流通販売

JAぶくしま未来飯館支店(以下「JA」)

図1 関係機関との役割分担の図

(2) 需要の確保

普及・包括連携協定による販路先の紹介
・販売先から求められる品質確保支援

村・実需者との調整
・商品化の働きかけ
・品質管理チェックシートの整理
・村内実需者とのマッチング

JA・収穫物の調製、物流

(3) 村内外PR

普及・知事表敬訪問調整
・マスコミを通じたPRの企画支援
・県公式Youtubeチャンネルで発信

村・新聞社訪問、投げ込み
・村PR事業(村SNS、加工品開発等)

JA・JA祭りでの商品販売(おこわ)
・各種PR活動への協力

3 活動成果

○生産・販売スキームを確立し、「あぶくまもち」を活用した「飯館村ならではの」の産地を形成。また、PRにより村内、村外へ飯館村の復興を発信。

(1) 安定生産 —産地拡大をコミット—

- 飯館村あぶくまもち生産組合設立(R3)
- 種子場設置(R4)
R4:5a→R5:10a→R6:20a
- 面積の拡大
R4:70a→R5:230a→R6:930a
- 反収の増加(10aあたり)
R4:380kg → R5:520kg
- 生産・販売スキーム確立(図2)

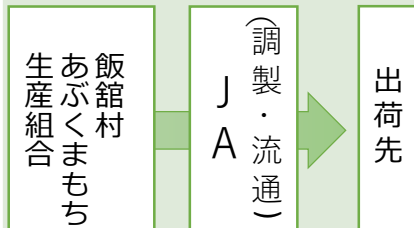


図2 生産・販売スキーム

(2) 需要の確保 —生産意欲が向上—

- 取引量増加
R4:2,680kg→R5:12,000kg
- 高品質の維持管理(図3)
R4~全量1等、コンタミ無し
- 村内需要量増加
R4:70kg→R5:1,500kg
- 安定した取引の実現(図4)
- 加工原料として高価格で取引
- 特産品開発
村内加工者による新商品開発



図3 品質管理
チェックシート



図4 セブンイレブンで
あぶくまもち商品販売

(3) 村内外PR —飯館の復興をアピール—

- 知事表敬訪問の実現(R4)(図5)
- 新聞掲載(4社)
- Web活用で飯館の魅力発信
- 集落と大学の交流が活発化
村内での交流の取組拡大
- 特産品を地域で販売
(JAまつり、村内道の駅)



図5 知事表敬訪問

4 今後の活動・方向性

○「あぶくまもち」による更なる営農再開と村民一体となった「飯館村ならではの」の復興・創生へ

	短期	中期
安定生産	<ul style="list-style-type: none"> ・調製作業効率化に向け村内RC利用 ・栽培暦の更新や計画的な産地拡大 ・生産組織活動の充実化 ・販売先を交えた意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・震災前の作付け面積であった20haを目標に生産面積拡大と、生産者の確保
需要の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・村特産品づくりに向けた新商品開発 ・特産品向けの村内需要拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・セブンイレブンとの取引拡大と商品の定番化、村内加工品の定着化
村内外PR	<ul style="list-style-type: none"> ・中期目標を達成し、知事表敬訪問を実施 ・帰村者の拡大、営農再開につなげるための村広報等のパブリシティの継続 ・関係人口を増やすためマスコミやWebなどあらゆる媒体の活用 	